

炭都の風景を切り撮る in 大牟田

炭鉱のまち大牟田にある近代化遺産として、三池港や炭鉱鉄道の「価値」を地域の人々に伝えることを目的として、炭都・大牟田の歴史的風景を「切り撮る」撮影会形式ワークショップを開催します。

ヒストリカルランドアートを まちづくりの契機に

まちの歴史を風景として「異化」するために、ヒストリカルランドアートの手法を用います。

炭都の歴史的風景を「切り撮る」意味

今回、ヒストリカルランドアートを作成するために、お集まり頂いた皆様にも、私たちが何をしようとしているのかを知っておいて頂きたいと思います。

私たちが日々過ごしているまちにも、歴史があります。まちの歴史は、まちの名物や顔となって知れ渡っているものもあれば、ひっそりと、忘れ去られようとしているものもあります。

私たちは、日本の近代化の礎となった炭鉱産業や、大牟田のまちと切っても切れない関係にある炭鉱遺産の数々を、風景として残したい、歴史として大牟田の人々に語り継いでもらいたい、と考えています。そのために、**大牟田の風景の中に「歴史」を見出し、その「価値」を大牟田の人々に伝えたいのです。**

皆様に制作して頂くヒストリカルランドアートには、そのようなメッセージがこめられていて欲しいと思います。

ヒストリカルランドアート (HiLA) とは

ランドアート (land art)とは、草や土、石、木、鉄など、どこにでもある「自然の素材」を用いて、砂漠や平原などに作品を構築する美術のジャンル、またはその作品のことを言います。規模の大きなものは、アースアート (earth art), アースワーク (earthworks) などとも呼ばれています。

ヒストリカルランドアート (HiLA) とは「地域に根ざした歴史を想起させる、ランドアート (地物を使ったインスタレーション)」のことで、造語です。この簡易芸術を制作することで、風景として地域の歴史を「異化」し、新しい視点から写真として「切り撮る」ことを目的としています。

今回参加者の皆様には、HiLAを制作して頂き、その写真を撮って、データ(アナログの場合、フィルムや焼付け)を提出して頂きます。

ヒストリカルランドアート 制作上の注意

ヒストリカルランドアートは、地域に根ざした歴史を想起させる、地物を使ったインスタレーションです。地物（草木や石、レンガや看板、材木など、法に触れない範囲で）を何かしら操作し、面白い構図を得たり、意図的な撮影対象場を作ったりすることで、風景を異化します。また、ごく普通の風景に名前を与え、違う意味を持たせたり、超芸術トマソンのように、新しい価値を見出すこともあるでしょう。この簡易芸術を撮影することで、**大牟田の風景の中に「歴史」を見出し、その「価値」を大牟田の人々に伝えて下さい。**

【制作上の注意】

- 1) 大牟田の資源を用いること
- 2) 炭都・大牟田の歴史と、その価値を伝えるものであること
- 3) 制作したHiLAは、できるだけ元に戻すこと

※一般的な市街地における撮影のマナーは、お守り下さい。特に工場敷地内や鉄道敷跡などは主催者で指示した場所以外、勝手に立ち入らないで下さい。危険なうえ主催者側の信用問題になりかねません。

ランドアート作品例

これらのランドアート作品は、
福岡大学工学部社会デザイン工学科
柴田准教授・石橋助教による演習
「景観デザイン論」（学部3年生必修）
の作品をお借りしています。



水面に写る魚



田舎の線路

日程および作品の提出について

撮影会：

8月27日（水）：10:00に宮原坑跡(大牟田市内)集合(のち宮原坑撮影)、
17:00に炭鉱のまちファンクラブ事務所で提出・解散

8月28日（木）：9:00に大牟田市三川地区公民館(のち三池港撮影)、
17:00に炭鉱のまちファンクラブ事務所で提出・解散

※ その他の場所，時間で作成したHiLAでも参加可能(応談)。
一人何作品でも提出可能です。

作品の提出方法：

用紙に応募者の必要事項（氏名，住所，電話番号，e-mailアドレス）

作品タイトル，データ名を記入し，撮影したデジタルデータ，またはネガを
提出して下さい。

※ 作品は返却いたしません。著作権は，以後「炭鉱のまちファンクラブ」に
帰属します。著作権を譲渡したくない方は応相談。

作品の展示方法については，本WSにご一任下さい。